コシアカツバメの巣を利用する動物

平田和彦（同志社高等学校３年）

筆者の通っている同志社高校（京都市左京区岩倉大鷺町 89）は廊下がテラス風の吹きさらしになっており、コシアカツバメ（*Hirundo daurica*）のコロニーになっている。コシアカツバメが営巣している校舎は２棟あり、その規模は 2004 年 6 月 19 日現在２校舎合わせて 102 巣（他種の利用、空巣、全半壊巣を含む）である。

筆者は同志社高校において 2003 年 4 月から継続してコロニーの調査を行ってきた結果、コシアカツバメの巣はコシアカツバメ以外にもいろいろな種類の動物に利用されていることがわかった。同志社高校ではスズメ（*Passer montanus*）、ヒメアマツバメ（*Apus affinis*）、アブラコウモリ（*Pipistrellus abramus*）の利用が確認された。このうちヒメアマツバメは京都府では絶滅危惧種に指定されており、府下の既知の繁殖地は宇治市のみであり、貴重な記録である。またアブラコウモリがコシアカツバメの巣内で繁殖した記録は、少なくとも国内ではこの記録が初記録ではないかと思われる。

さらに、大阪府池田市伏尾台の府営住宅にあるコシアカツバメのコロニーにおいて、巣内調査を行った。その結果、ヤガ科の一種であるフクラスズメ（*Arcte coerulea*）の集団越冬を確認した。その他にも昆虫類、クモ類、ダニ類の越冬も確認できた。

以上のようにコシアカツバメの巣は、羽毛などを入口に付ける（ヒメアマツバメ）、中に藁を敷く（スズメ）など、それぞれに都合の良いように手を加えて改良することで、いろいろな動物に利用されていることがわかってきた。とりわけアブラコウモリやフクラスズメはスズメが運び込んだと思われる藁の上で確認されるケースがあったが、コシアカツバメの巣にスズメが手を加え、さらにそれを副次的に他種が利用していることは非常に興味深い。

筆者はこのように多種の動物が共存する同志社高校のコロニーにおいて、利用している動物の種類別に占有率を調べ、過半数をスズメが占めていることがわかった。また、3 階建ての校舎の何階に巣が多いか、スズメが特に好んで乗っ取る階があるかどうかをそれぞれ検討した。その結果、コシアカツバメの巣全 102 巣は、１階に 24 巣（23.53%）、2 階に 19 巣（18.63%）、3 階に 59 巣（54.84%）あり、3 階に極めて偏って営巣することがわかった。またポテンシャルに動物が利用できうる（全半壊巣を除いた）巣のうち、各階でスズメが乗っ取った巣の割合は、1 階は 54.2%（24 巣中 13 巣）、2 階は 57.9%（19 巣中 11 巣）、3 階は 59.3%（59 巣中 35 巣）であった。これらの値から、スズメは乗っ取る巣の階を特に選んではいないと考えられた。

さらに、去年から巣の利用者を追跡できている巣については、2003 年度と 2004 年度の２年間における利用者の変遷を検討した。今年度コシアカツバメが利用している 25 巣に注目し、去年の利用者がわからなかった 5 巣と今年新たに作られた 10 巣を除くと、残りの 10 巣中 9 巣が前年度もコシアカツバメに利用されていた。